

 評価のポイント

CL-新人.看護実践能力：ケアする力
[34-新人] 「ショック」の基本的病態生理

1. ショックの定義にある必ずしも血圧低下がショックではない、というのはどのような意味でしょうか？
2. ショック症状の重要な徴候であるショックの5Pを振り返り暗記してみましょう。
3. ショックの5Pとショックスコアで事例を評価してみましょう。

<患者情報> H・Yさん 40歳 男性
生来健康であり、既往歴なし 集中治療室の看護師
9月26日、1週間前より風邪をひき、カロナールを服用して職務継続していた。
しかし、2日前より動悸症状が出現した。
本日、出勤時間になっても動くことができず、家族が救急要請し、当院受診となった。

<搬送時の状態> NIBP：90/50mmHg 心拍数：125回/分 洞調律 体温：39.0℃
呼吸回数：33回/分 SpO₂：90% (Room Air)
外傷なし 意識レベル：JCS II-20 瞳孔2 mm/2 mm 対光反射+/
顔色は悪く、皮膚は冷たく湿っている。
数日前より、食欲はなく、水も食事もほとんどとれていない。ほとんど寝ていました。
トイレに行く姿も見えていません・・・と家族からの情報あり。

ショックの定義では、重要臓器や細胞、組織の機能を維持するための十分な酸素と栄養素を供給するための血液循環が短時間に得られなくなり、種々の異常を伴う過程とその状態（症候群）であり、血圧低下のみがショックではない。ショック5徴候は暗記すべき徴候で、臨床で遭遇したら放置してはならない。

1) 顔面蒼白 2) 虚脱 3) 冷汗 4) 脈拍触知不能 5) 呼吸不全

ショックの重症度を判定するスコアとしてショックスコアがある。